



写真1 佐伯団長、運輸省サラ・アハマツ鉄道局局長によるS/W、M/M署名に立ち合う調査団員。



写真2 佐伯団長と運輸省サラ・アハマツ鉄道局局長の握手を見守るモクレス運輸省計画局長とシバイ企画省科学・技術協力局長。



写真3 シリア国鉄の標準軌。旧ソ連製50キロレール(定尺長25メートル)、PC枕木(60センチメートル間隔)。枕木端の道床が不足気味で継目板締結ボルトが抜けていた。



写真4 既設の小型橋梁、橋長約20メートル、桁高約60センチメートル。道床止はなかった。



写真5 ダマスカス市内から90キロメートル北上したところにある燐鉱石積出専用の停車場。

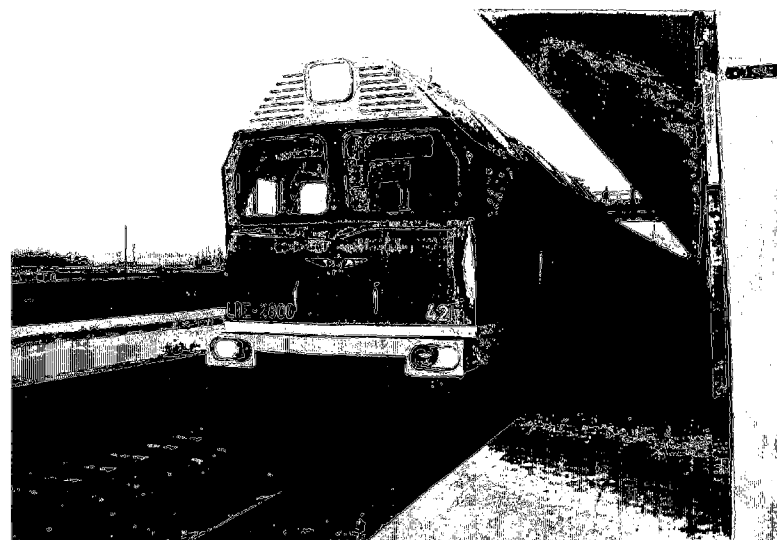


写真6 アレッポからダマスカスまで夜行列車を牽引した旧ソ連製LDE-2800型ディーゼル機関車。

写真7 ダマスカス付近の貨物駅
で停車中のコンテナ車
群。

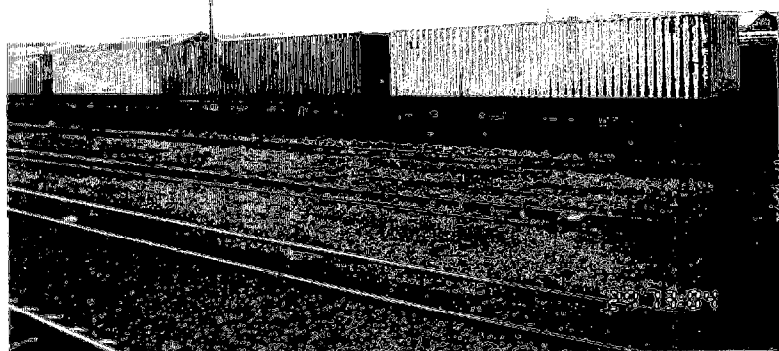
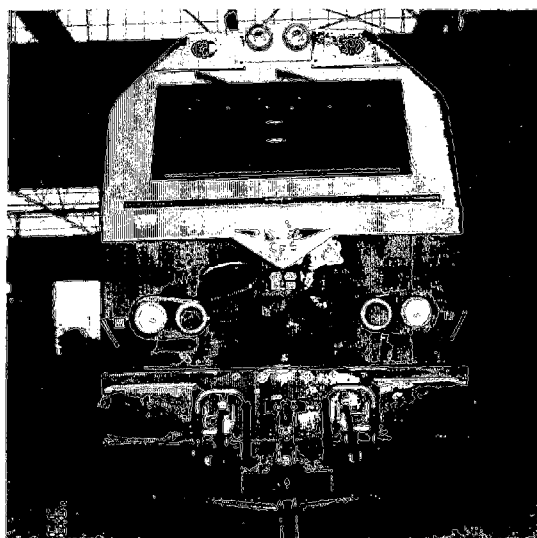


写真8 ダマスカス市内から外れ
たアル・カダム駅の跨線
橋から北を望む。右側に
ヘジャズ鉄道の車両整備
工場がある。



写真9 アレッポ郊外の車両工場
に納車されたばかりの仏
アルストム社製のLDE3200
機関車。2000年中に購入
済30両が納車される予定。



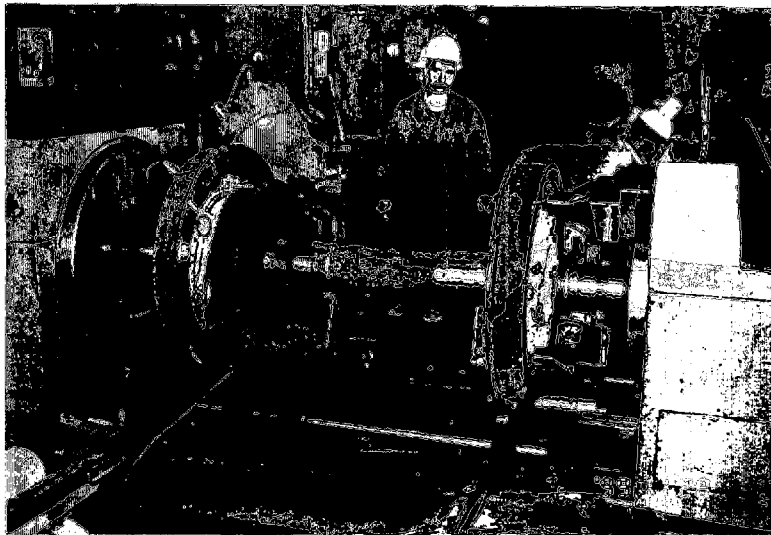


写真10 前記、同車両整備場内で
車輪の切削整備状況。

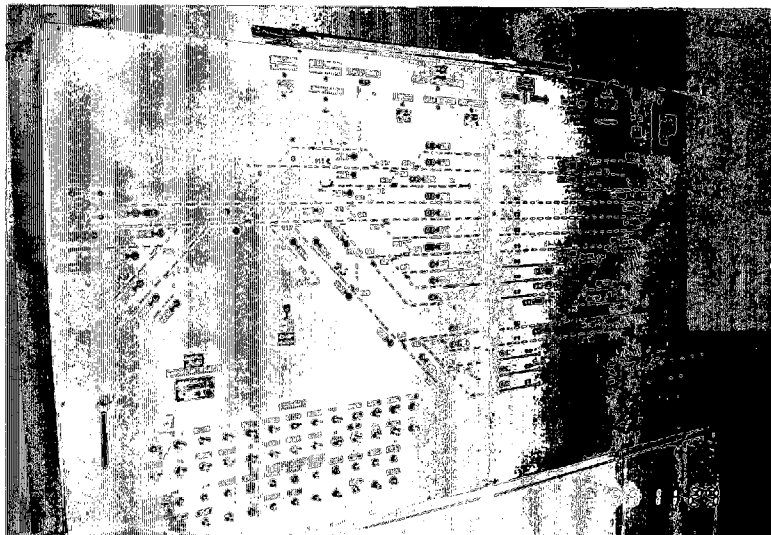


写真11 アレッポ駅構内にある、
構内信号司令所のディス
プレイパネル。

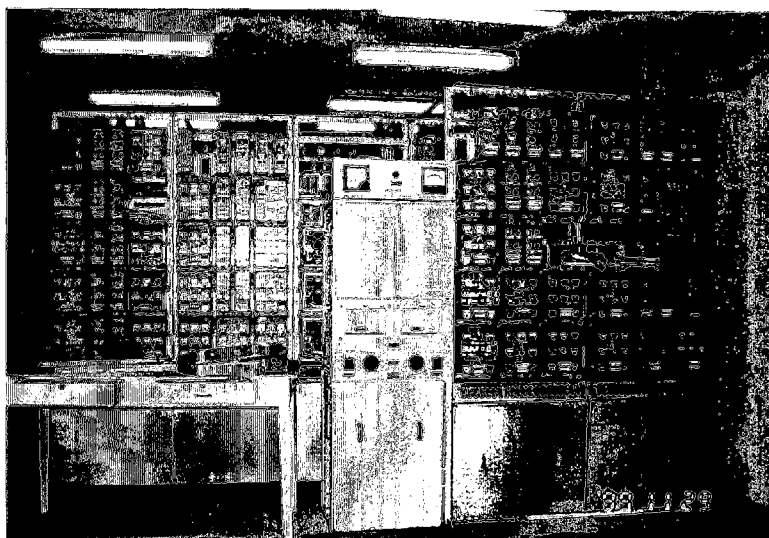


写真12 同構内信号司令所地下に
ある継電連動装置。

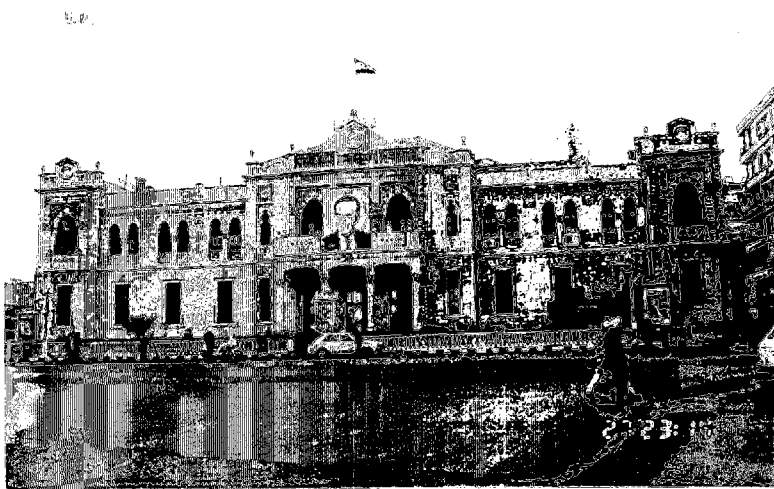


写真13 ダマスカス市内のヘジャズ鉄道カナワット（中央）駅舎正面を望む。この建物の2階にヘジャズ鉄道本部がある。

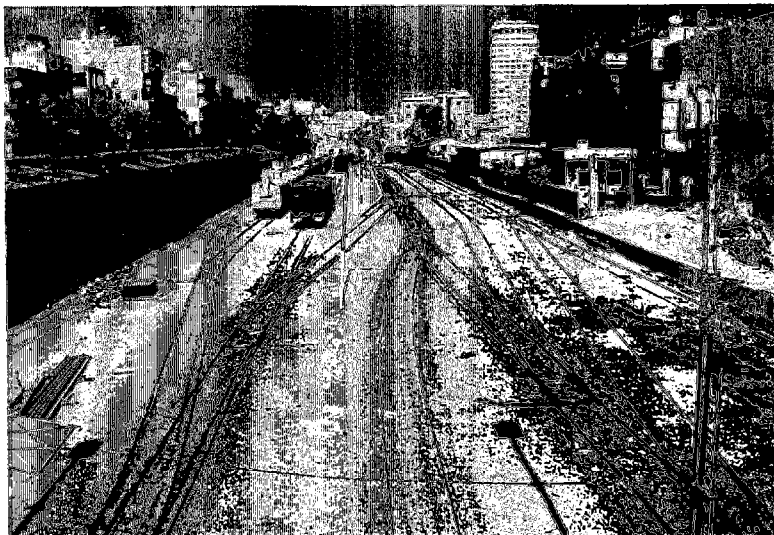


写真14 同駅の南側に架かるZaed Ibn Haritha橋から同駅を望む。

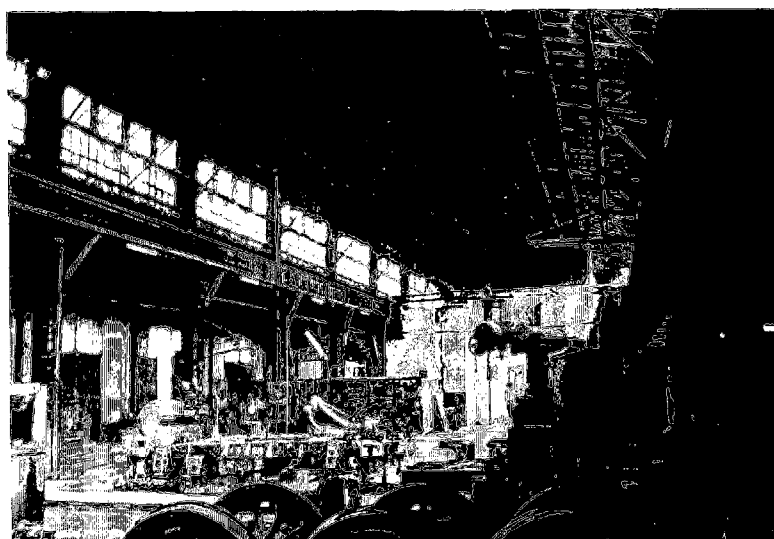


写真15 アル・カダム駅にあるヘジャズ鉄道車両整備工場内の様子。1897年に築造され、ベルト駆動で最大90トンのプレス機を稼働させる前近代的設備が現役である。



写真16 このように同車両整備工場ではリタイアした蒸気・ディーゼル機関車をリハビリして再利用する活動が行われている。1919年Saechs Maschinefabrik社製。

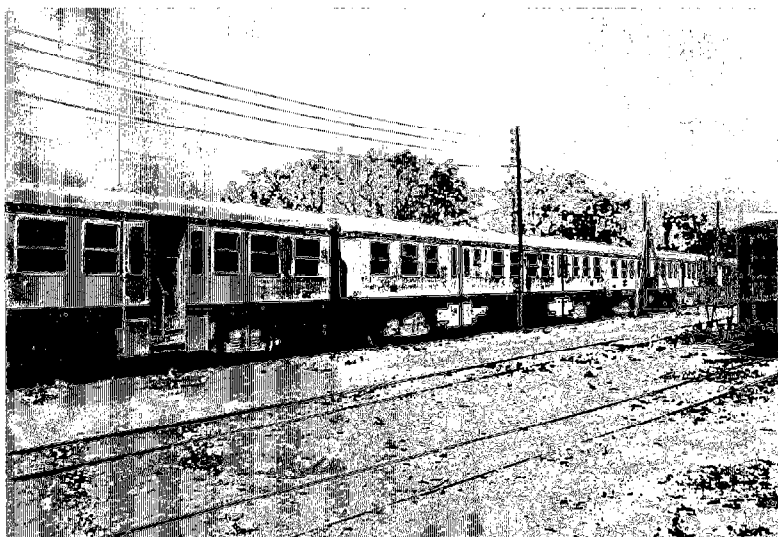


写真17 ハンガリーGanz Mavag社1975年製。



写真18 ルーマニアの23August社1977年製。最高速度毎時100キロメートルの能力をもつ。